

1. 学校名：学校法人いづな学園グリーン・ヒルズ小学校、対象：3・4年生、8名

2. 探究課題・活動実践の概要、ねらい、目標等

(1) 活動テーマ 『救え！私たちのりんご園 ～りんご畑から見える気候変動問題～』

(2) 目 標

・りんご園の現状に気づき、その原因や対策について調査する中で、人間の生活が地球環境や生物たちの営みに少なからず影響を与えているのではないかという仮説を持ち、これからの自分たちのりんご園のあり方や生活の仕方について考える。

・具体的な活動からりんご園や野外活動のフィールドなどの身近な環境がこの数年で大きく変動していることに気づき、自分たちのりんご園もこのまま同じようには育てていけないことを活動と学びの往還を通して考え、切実感をもって行動する。

(3) ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 多様性（多種多様な現象が起きていること） | <input type="checkbox"/> 公平性（一人ひとりを大切に） |
| <input checked="" type="checkbox"/> 相互性（関わりあっている） | <input checked="" type="checkbox"/> 連携性（互いに連携・協力すること） |
| <input checked="" type="checkbox"/> 有限性（限りがある） | <input checked="" type="checkbox"/> 責任制（責任を持って） |

その他（ ）

②育成する資質・能力

- | | |
|---|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 批判的に考える力 | <input type="checkbox"/> 他者と協力する力 |
| <input type="checkbox"/> 未来像を予測して計画を立てる力 | <input type="checkbox"/> つながりを尊重する態度 |
| <input type="checkbox"/> 多面的・総合的に考える力 | <input type="checkbox"/> 進んで参加する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーションを行う力 | |

(4) 関連する SDGs



13 気候変動に具体的な対策を
15 陸の豊かさを守ろう

(5) 探究課題・活動実践の概要

・探究課題「私たちのりんごは、なぜ病気になってしまったのだろうか？」

・本校では、7年前から小学生を中心に芋井広瀬地区に畑を借りて、りんごの栽培に携わってきた。3・4年生の児童を中心に春からりんごを観察し、育てる活動を行っている。今年度は春の霜被害に始まり、高温の時期が長かった影響もあり、りんごの実は小さく、木そのものも元気がないのではないかと、ということに児童が気づき始めた。そこで、自分たちで病気の原因を調べ、見えてきたいくつかの仮説をもとに農家さんへの取材を行い、その原因について追求した。そこから「気候変動」がりんごだけではない



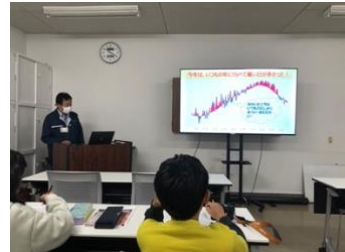
その他の作物の生育に大きな影響を与えていることが分かってきた。自分たちが大切に育ててきたりんごの未来を軸にすることで、迫りくる気候変動による人間や動植物たちへの影響も捉えながら、「いま考え、行動しなければ」という切実な思いをもって問題に立ち向かおうと、まずはたくさんの人たちに、この事実を伝えようと動き始めている。

3. 流れ（指導計画の概略）

4月～ りんご園作業① 花摘み、畑整備（今年の開花の早さを実感する。）

5月～ 水路づくり、草刈り作業

- 6月～ 水路づくり草刈り作業、暑さ対策をみんなで考える。(夏の時期の暑さを実感する。)
- 7月～ 草刈り作業
- 9月～ 災害について学習する、ハザードマップを確認し畑の危険を知る。
- 10月～ 病気にかかった枝や幹を切る。(なぜ病気にかかってしまったのか、と疑問をもつ)
病気の原因を探るべく、本やインターネット、新聞などから調べる。
農家さんに直接取材し、病気の原因を調べる。
- 11月～ 長野地方気象台へ行き、長野市内の天気や気温の変化について学ぶ。
気候変動によってどのようなことが起きているのかを学ぶ。
- 12月～ 気候変動を止めるために、自分にできることは何かを考え、行動し始める。
- 1月～ 2月の発表会にて、そのような言葉で伝えるを考え準備する。
- 2月～ 発表の場を利用して、多くの人に伝える。



4. 効果・反応・所感

これまで当たり前に取り組んでいたりんご栽培だが、いつもとは異なる気候とそれによるリンゴの生育状況について、作業や観察を通して気づくことができ、それが学習の出発点にもなった。大切に育ててきたリンゴだからこそ、「病気を治すためにはどうしたらいいのか」という、自分たちが知りたいことをクラスの共通課題として学習を展開した。

また、学習の途中に自分たちでは調べられない事実、読めない資料が出てきたことにより、知りたいことを知るためにはどんな方法が適しているかを考え、病気について一番詳しい人＝農家さんに聞いてみようという流れを子どもたちが導き出すことにつながった。調べていく中で、リンゴの病気には気候の変化が大きく関わることを知り、「この事実をもっと色々な人に伝えなければいけない」「自分たちももちろんだけれど、たくさんの人で気候変動への取り組みをしなければいけない」と、手作りのパンフレットや絵本を通して人に伝える工夫をし始めた。

これから学習が終わり、年度末を迎えても、自分ひとりでもできる身近なことを意識化し、習慣化することで、気候変動に対して具体的に行動し、呼びかけられる子どもたちになりつつある。



5. 指導方法・体制の工夫（協力者や資源）

- ・畑での農作業を通して実感を得る。
- ・取材や見学を通して、本物に触れる。
- ・発表の機会を利用して、自分の言葉で伝える。

<体制の工夫>

- ①信濃毎日新聞出前授業(取材の仕方、質問のつくり方)
- ②農家さんへのインタビュー(地主、災害経験のあるリンゴ農家)
- ③長野地方気象台への見学